

への支援も活発になりつつあった時期でもありませんでした。この状況での着任により、日本の人々特有の強い資質を知ることになりました。

耐え難い困難に見舞われても、日本の人々はその時々において自ら答えを見つけ、力を合わせて協力する強さを持つことを歴史が証明しています。この出来事は私の心の中に教訓として深く刻まれ、日本を離れた後も抱き続けることでしょう。

市長 ベルギー王国から被災地の復興にも多大なる支援をいただき、御礼申し上げます。

大使 宮城県にある病院の改修工事のための寄付を行いました。このプロジェクトは、日本赤十字社と協力して、各国政府や大使館のほか、日本の経済団体や日本に拠点を置くベルギー企業関係団体などと一緒に、2年以内を目標に病院を改修して治療活動が行えるようにと始めたもので、実際にプロジェクトが始まってから2年後に、病院が再開されました。被災地の復興に、ささやかではありますが協力できたことを誇りに思います。



市長 素晴らしい活動が行われていたんですね。さて、震災以来、新たな投資活動も少しずつ始まり、国内経済も回復しつつあります。企業の新規投資に関しては、ベルギー資本の企業であるエテックスグループの日本マイクロサム株式会社に津市への進出を決定いただき



平成25年6月27日 立地協定調印式

ました。同社の津市への立地に当たってはベルギー王国大使館にもサポートをいただき、さらには、昨年6月の立地協定調印式の際には大使にもご臨席を賜り、立会人として署名いただきましたことに感謝申し上げます。

この件は、昨年2月28日、同社のCEOであるポール・ファン・オーエン氏と、進出の責任者であったスティーヴン・ヘイテンス氏にお会いしたことから始まります。同社はもともと四日市市内に製造拠点をもちだっただけですが、業績好調による増産のため、製造ラインを拡張する設備投資を検討されていました。そこで三重県内での移転の可能性を探るため、津市へ視察においでになった際に、トップセールスを行ったことで早い段階から信頼関係を築くことができました。

日本マイクロサム株式会社の津市進出については、両国にとっても大変重要なものであると思いますが、大使のご意見をお聞かせください。

大使 日本マイクロサム株式会社の親会社であるエテックス社は、世界各地に92カ所の製造



 **Mr. Luc LIEBAUT**

駐日ベルギー王国特命全権大使 リュック・リーバウト

1982年にベルギー外務省に入省。モスクワ、アンカラ、プラハに外交官として赴任、本国にて外務大臣首席補佐官代理を務めた後、駐クロアチア ベルギー大使、駐セルビア・モンテネグロ ベルギー大使を歴任。本国にて外務省欧州総局欧州総合政策部長、二国間経済局南東ヨーロッパ部長などを務めた後、2011年3月の震災直後に来日し、駐日ベルギー王国特命全権大使に就任。